

平均寿命と平均余命

○日本人の平均寿命(2011)

男 79.44歳(世界8位・1位は男女とも香港)

女 85.90歳(世界2位)→女性は10年まで26年連続世界一
だった→①震災の影響、②若い女性の自殺者増加による

○日本人の平均余命とその延び(2009) (単位:年)

年齢	男			女		
	平成21年	平成20年	延び	平成21年	平成20年	延び
60	22.87	22.58	0.29	28.46	28.12	0.34
65	18.88	18.6	0.28	23.97	23.64	0.33
70	15.1	14.84	0.26	19.61	19.29	0.32
75	11.63	11.4	0.23	15.46	15.18	0.28
80	8.66	8.49	0.17	11.68	11.43	0.25
85	6.27	6.13	0.14	8.41	8.21	0.2
90	4.48	4.36	0.12	5.86	5.71	0.15

健康寿命を算出

介護を受けたり病気で寝たきりになったりせず、自立して健康に生活できる期間を示す「健康寿命」を厚生労働省が初めて算出、2010年は男性70・42歳（10年の平均寿命79・55歳）、女性73・62歳（同86・30歳）になったとする結果を1日、専門家でつくる厚生科学審議会の部会で示した。

日常生活に制限のない期間の平均： 全国の年次推移（平成13，16，19，22年）

平成年	男性			女性		
	日常生活に制限のない期間の平均（年）	日常生活に制限のある期間の平均（年）	平均寿命（年）	日常生活に制限のない期間の平均（年）	日常生活に制限のある期間の平均（年）	平均寿命（年）
13	69.40	8.67	78.07	72.65	12.28	84.93
16	69.47	9.17	78.64	72.69	12.90	85.59
19	70.33	8.86	79.19	73.36	12.63	85.99
22	70.42	9.22	79.64	73.62	12.77	86.39
北海道	70.03	9.24	79.26	73.19	13.37	86.57

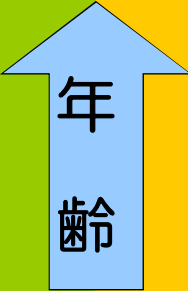
人口ピラミッドの推移

男

2050年

女

65歳以上

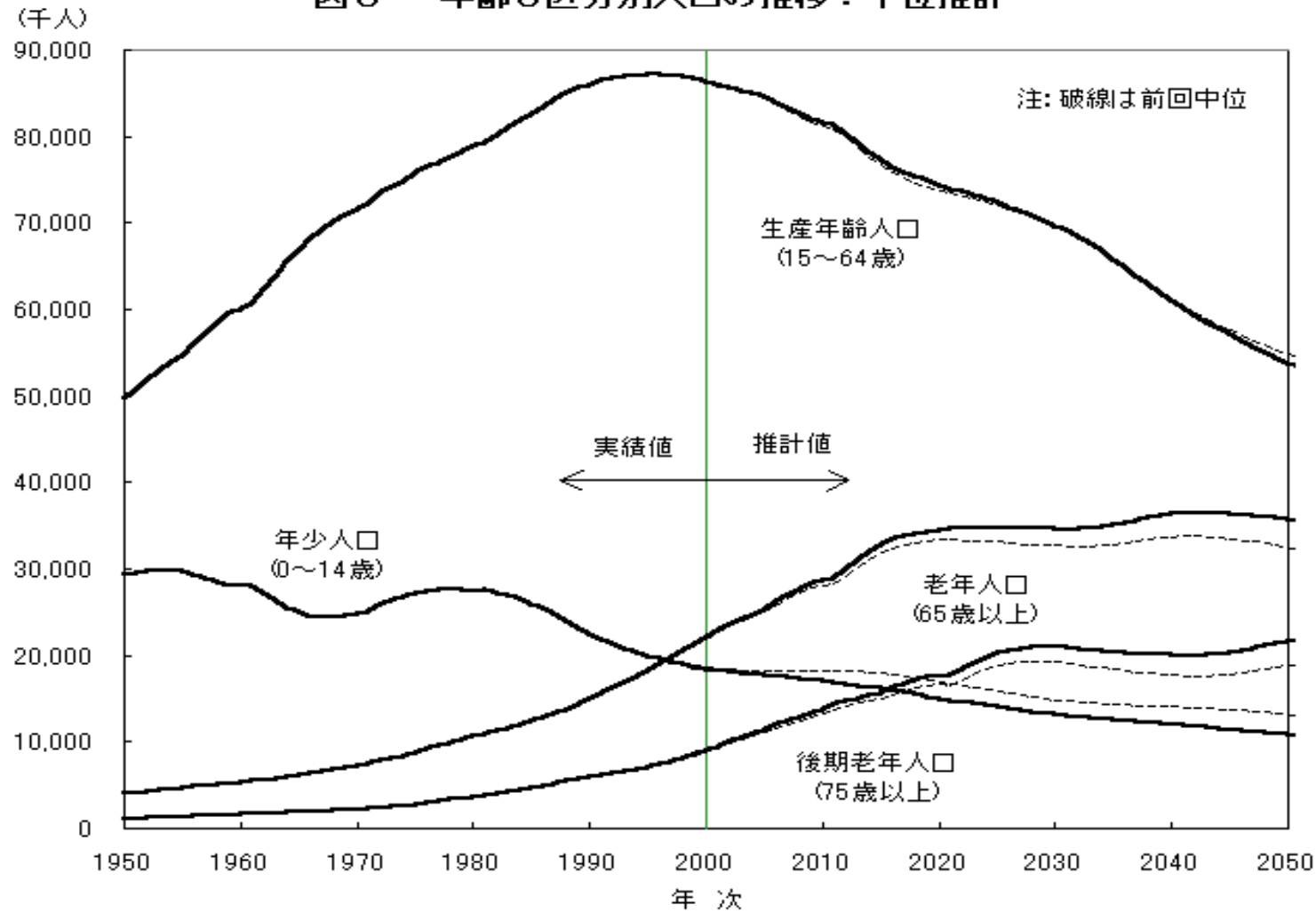


人口（年齢階級別）※ 年齢階級は、0歳～100歳以上の1歳きざみとなっている。

（出典：総務省統計局『国勢調査報告』，国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口（平成14年1月推計）』）

少子高齢化の問題

図3 年齢3区分別人口の推移：中位推計



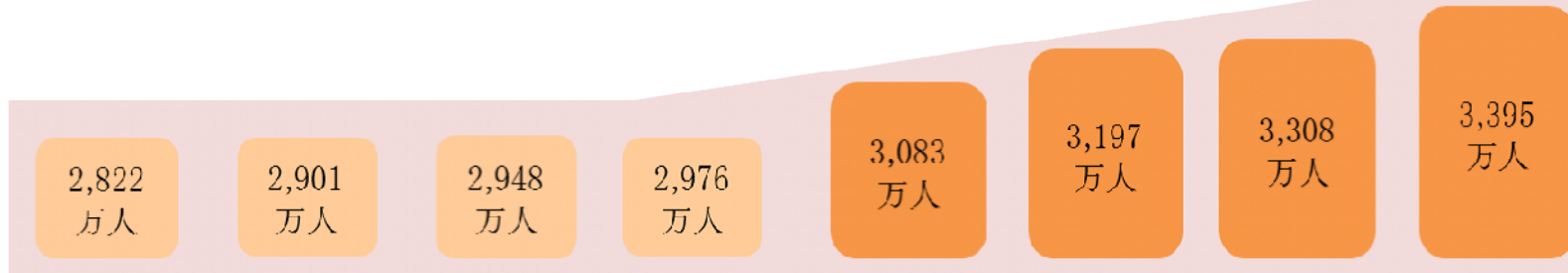
「団塊の世代」の高齡化と「若者世代」の減

2015年までに、「団塊の世代」が65歳に達し、支える側から支えられる側に。
改革は待ったなしの状況と言えます。

2008年 2009年 2010年 2011年 **2012年** 2013年 2014年 **2015年**

「団塊の世代」の高齡化

65歳以上



+79万人

+48万人

+28万人

+107万人

+114万人

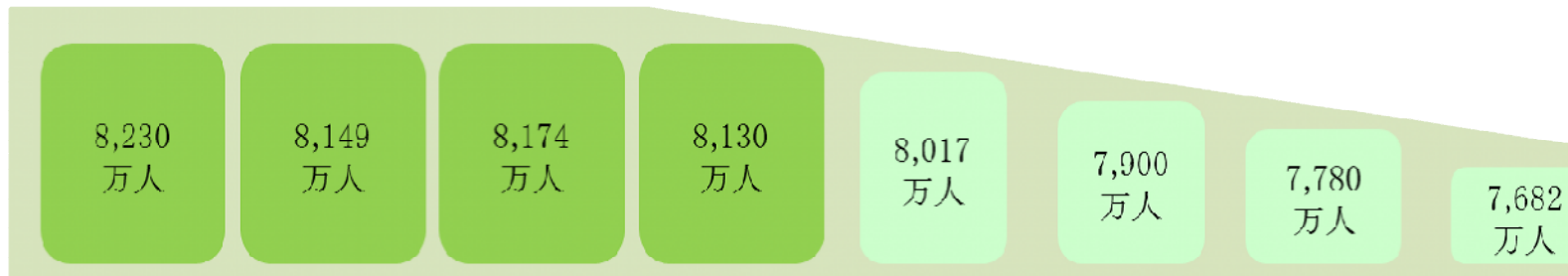
+111万人

+87万人



「若者世代」の減少

15歳以下



▲81万人

+24万人

▲43万人

▲113万人

▲118万人

▲119万人

▲98万人



(出所) 総務省「国勢調査」「人口推計」、社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位・死亡中位)

札幌市人口の推移

総人口

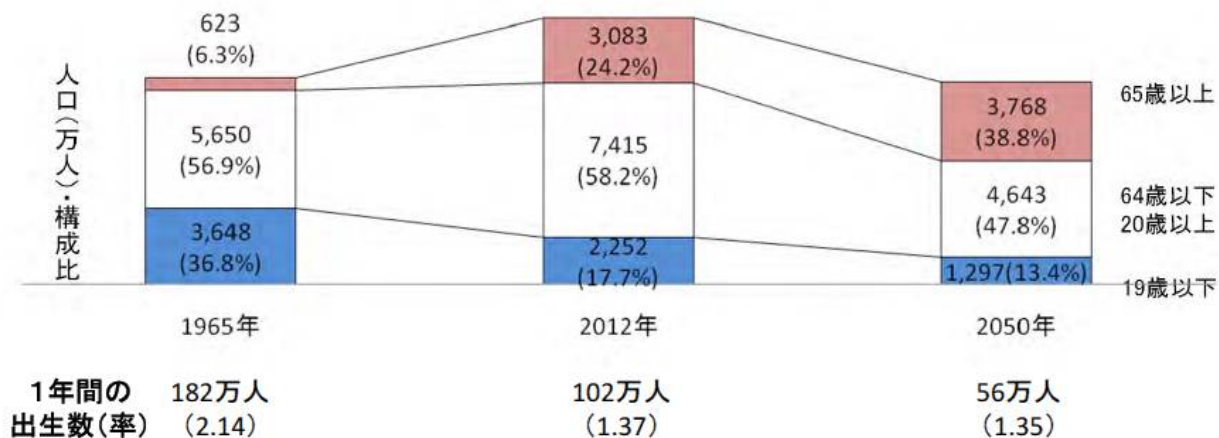
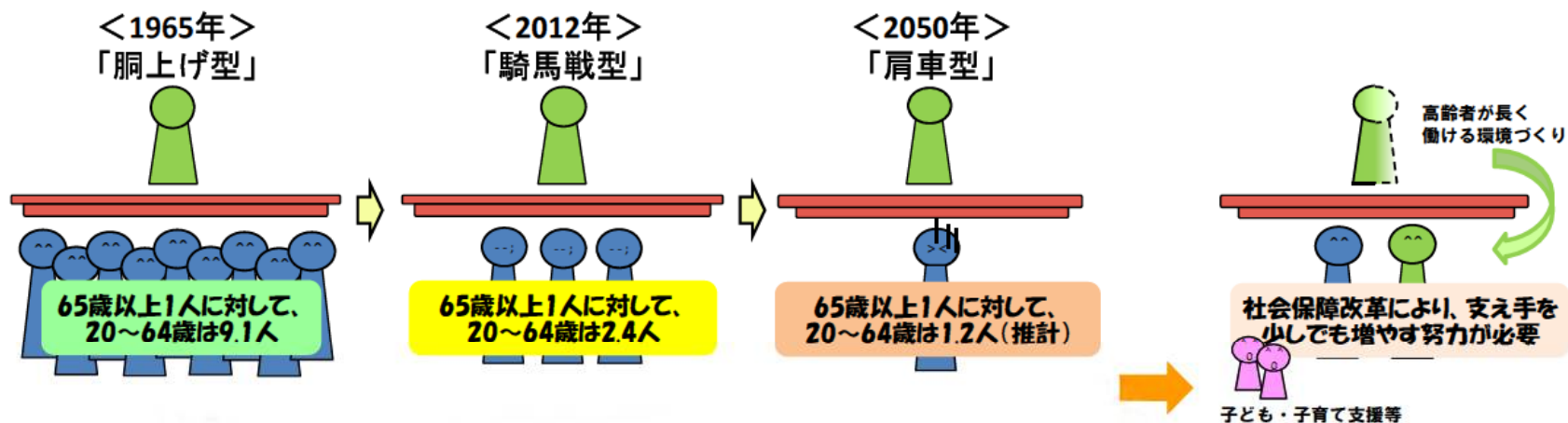
地域	総人口(人)							指数(2005年=100)						
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
1100 札幌市	1,880,863	1,910,791	1,914,265	1,900,016	1,868,049	1,819,526	1,756,075	100.0	101.6	101.8	101.0	99.3	96.7	93.4
1101 中央区	202,801	214,209	221,492	226,534	229,352	229,932	228,352	100.0	105.6	109.2	111.7	113.1	113.4	112.6
1102 北区	272,877	281,002	283,943	284,392	282,018	276,926	269,363	100.0	103.0	104.1	104.2	103.4	101.5	98.7
1103 東区	253,996	256,762	257,062	255,117	250,897	244,505	236,067	100.0	101.1	101.2	100.4	98.8	96.3	92.9
1104 白石区	201,307	202,953	202,302	199,863	195,763	190,011	182,787	100.0	100.8	100.5	99.3	97.2	94.4	90.8
1105 豊平区	209,428	212,070	212,113	210,246	206,544	201,146	194,260	100.0	101.3	101.3	100.4	98.6	96.0	92.8
1106 南区	153,021	149,027	144,059	137,851	130,587	122,470	113,718	100.0	97.4	94.1	90.1	85.3	80.0	74.3
1107 西区	207,329	212,000	212,948	211,704	208,366	203,158	196,366	100.0	102.3	102.7	102.1	100.5	98.0	94.7
1108 厚別区	129,720	130,614	129,932	127,872	124,380	119,709	114,080	100.0	100.7	100.2	98.6	95.9	92.3	87.9
1109 手稲区	137,601	138,102	136,849	134,444	130,800	125,912	119,894	100.0	100.4	99.5	97.7	95.1	91.5	87.1
1110 清田区	112,783	114,051	113,566	111,993	109,342	105,757	101,189	100.0	101.1	100.7	99.3	96.9	93.8	89.7

75歳以上人口

地域	75歳以上人口(人)							75歳以上人口の指数(2005年=100)						
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
1100 札幌市	142,509	185,216	222,676	262,869	321,750	355,148	362,524	100.0	130.0	156.3	184.5	225.8	249.2	254.4
1101 中央区	16,722	21,617	25,438	29,408	35,579	39,217	41,491	100.0	129.3	152.1	175.9	212.8	234.5	248.1
1102 北区	20,051	25,984	31,436	37,143	45,522	50,305	50,763	100.0	129.6	156.8	185.2	227.0	250.9	253.2
1103 東区	17,904	22,664	26,970	31,833	39,320	43,331	43,504	100.0	126.6	150.6	177.8	219.6	242.0	243.0
1104 白石区	13,774	17,954	21,452	24,936	29,973	32,585	33,061	100.0	130.3	155.7	181.0	217.6	236.6	240.0
1105 豊平区	15,504	20,022	23,660	27,158	32,164	34,447	34,672	100.0	129.1	152.6	175.2	207.5	222.2	223.6
1106 南区	13,752	17,959	21,502	24,992	29,903	32,328	32,346	100.0	130.6	156.4	181.7	217.4	235.1	235.2
1107 西区	16,110	21,133	25,471	30,013	36,394	39,868	40,370	100.0	131.2	158.1	186.3	225.9	247.5	250.6
1108 厚別区	9,515	12,996	16,603	20,461	25,450	28,444	29,541	100.0	136.6	174.5	215.0	267.5	298.9	310.5
1109 手稲区	11,450	14,605	17,559	21,509	27,506	31,316	32,226	100.0	127.6	153.3	187.8	240.2	273.5	281.4
1110 清田区	7,726	10,283	12,584	15,415	19,939	23,305	24,550	100.0	133.1	162.9	199.5	258.1	301.6	317.8

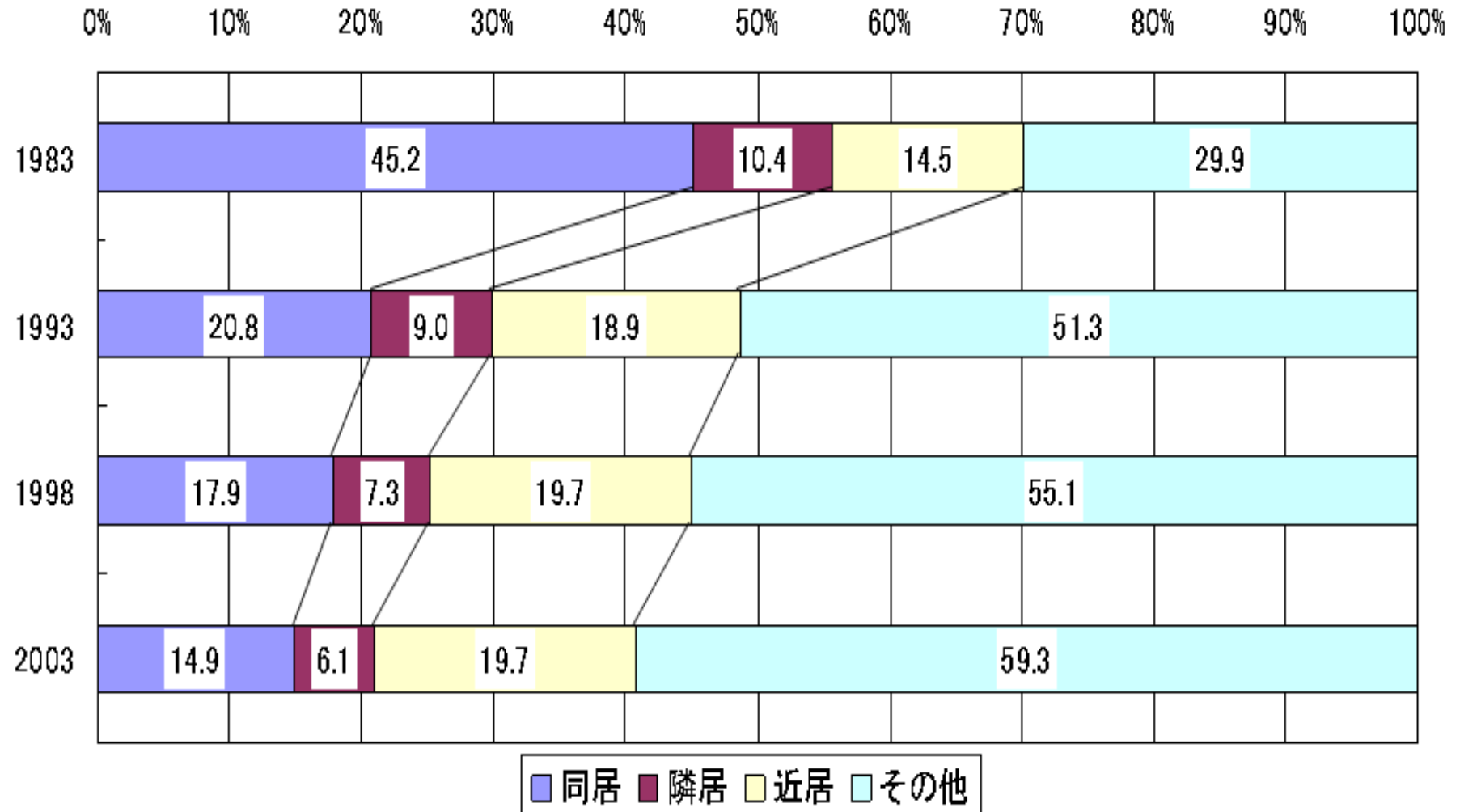
「肩車型」社会へ

今後、急速に高齢化が進み、やがて、「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れます。



(出所)総務省「国勢調査」、社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」、(出生中位・死亡中位)、厚生労働省「人口動態統計」

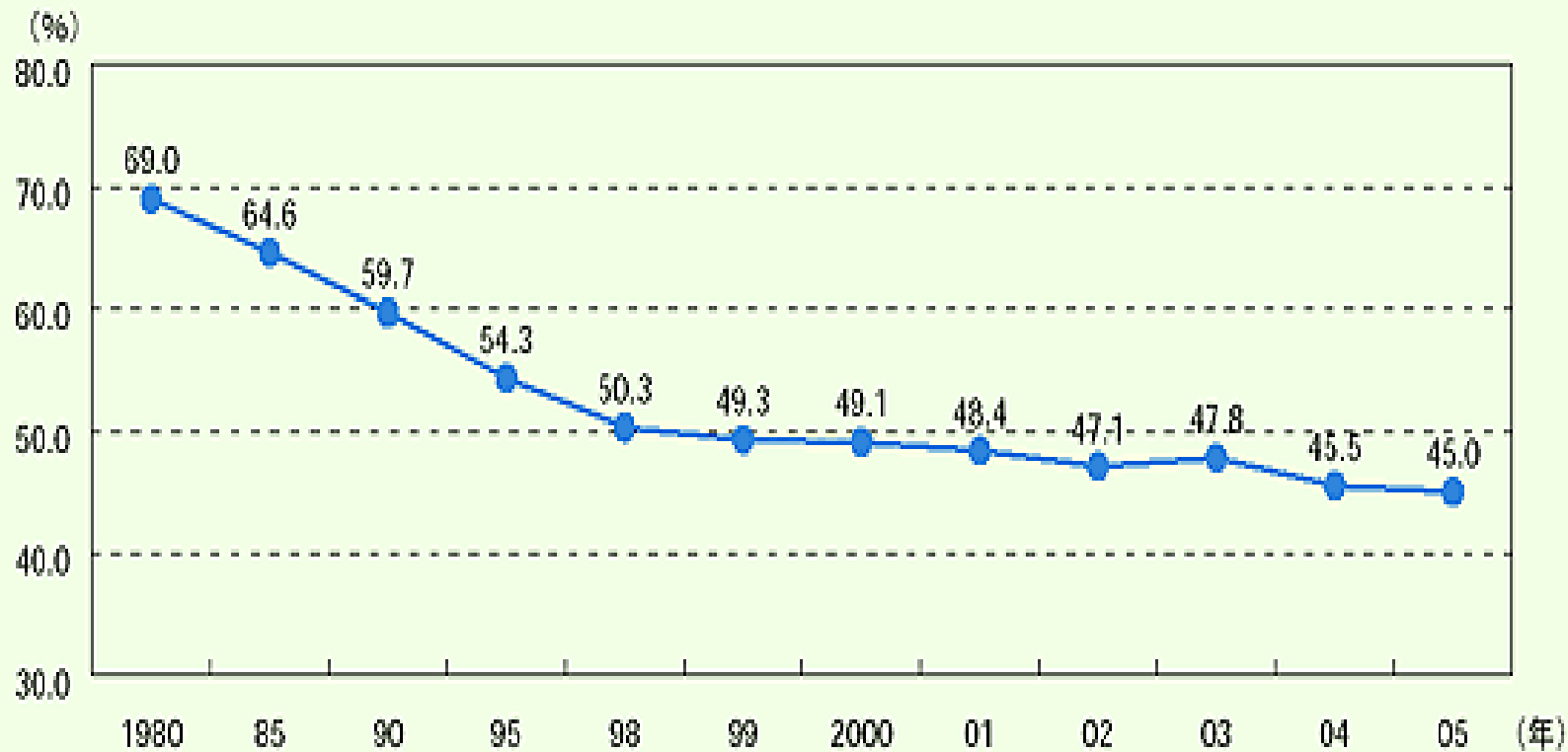
高齢期における住まい方に関する意向



(出典) 国土交通省住宅局「平成15年住宅需要実態調査」

子どもとの同居率

図表1-2-3 子との同居率



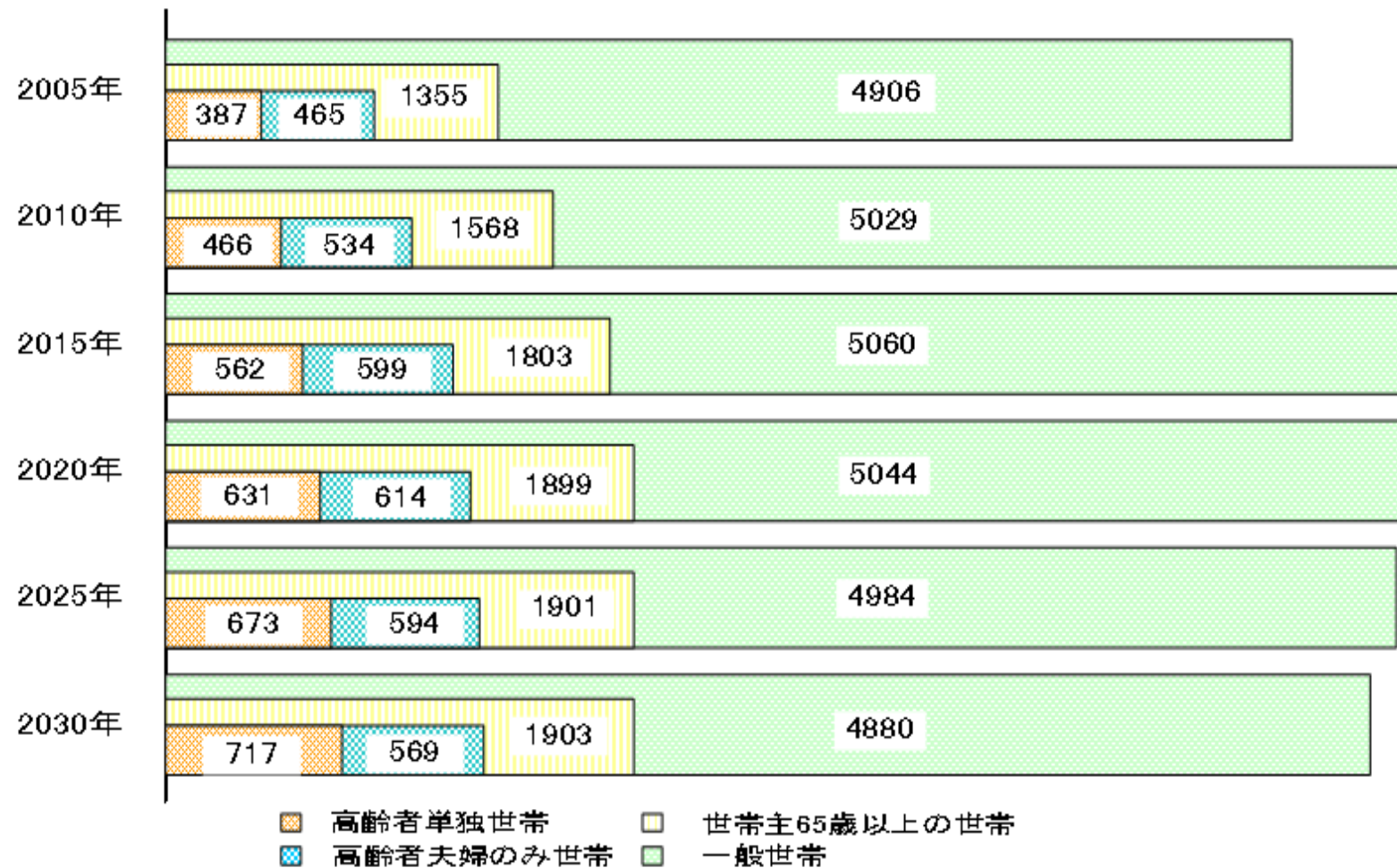
資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「国民生活基礎調査」（1985年以前は「厚生行政基礎調査」）

都道府県同居率・東日本

	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	
北海道	18%	17%	16%	15%	13%	12%	11%	北海道
青森県	32%	32%	31%	30%	28%	27%	25%	青森県
岩手県	38%	37%	36%	35%	32%	31%	29%	岩手県
宮城県	33%	32%	31%	29%	27%	25%	23%	宮城県
秋田県	41%	42%	40%	38%	36%	33%	30%	秋田県
山形県	47%	48%	47%	45%	43%	40%	37%	山形県
福島県	38%	38%	36%	35%	32%	30%	28%	福島県
茨城県	32%	31%	30%	28%	26%	24%	21%	茨城県
栃木県	33%	33%	31%	29%	27%	25%	22%	栃木県
群馬県	30%	29%	27%	25%	23%	21%	18%	群馬県
埼玉県	19%	19%	17%	16%	14%	13%	12%	埼玉県
千葉県	21%	20%	19%	17%	16%	14%	13%	千葉県
東京都	15%	15%	13%	12%	11%	10%	8%	東京都
神奈川県	15%	15%	14%	13%	11%	10%	9%	神奈川県
新潟県	41%	41%	40%	37%	35%	32%	29%	新潟県
富山県	43%	42%	41%	38%	35%	31%	28%	富山県
石川県	37%	36%	34%	31%	28%	25%	22%	石川県
福井県	42%	42%	41%	39%	36%	33%	30%	福井県
山梨県	32%	31%	29%	27%	24%	22%	19%	山梨県
長野県	36%	35%	33%	31%	28%	25%	23%	長野県
岐阜県	34%	34%	33%	31%	29%	27%	24%	岐阜県

世帯形態の将来推計

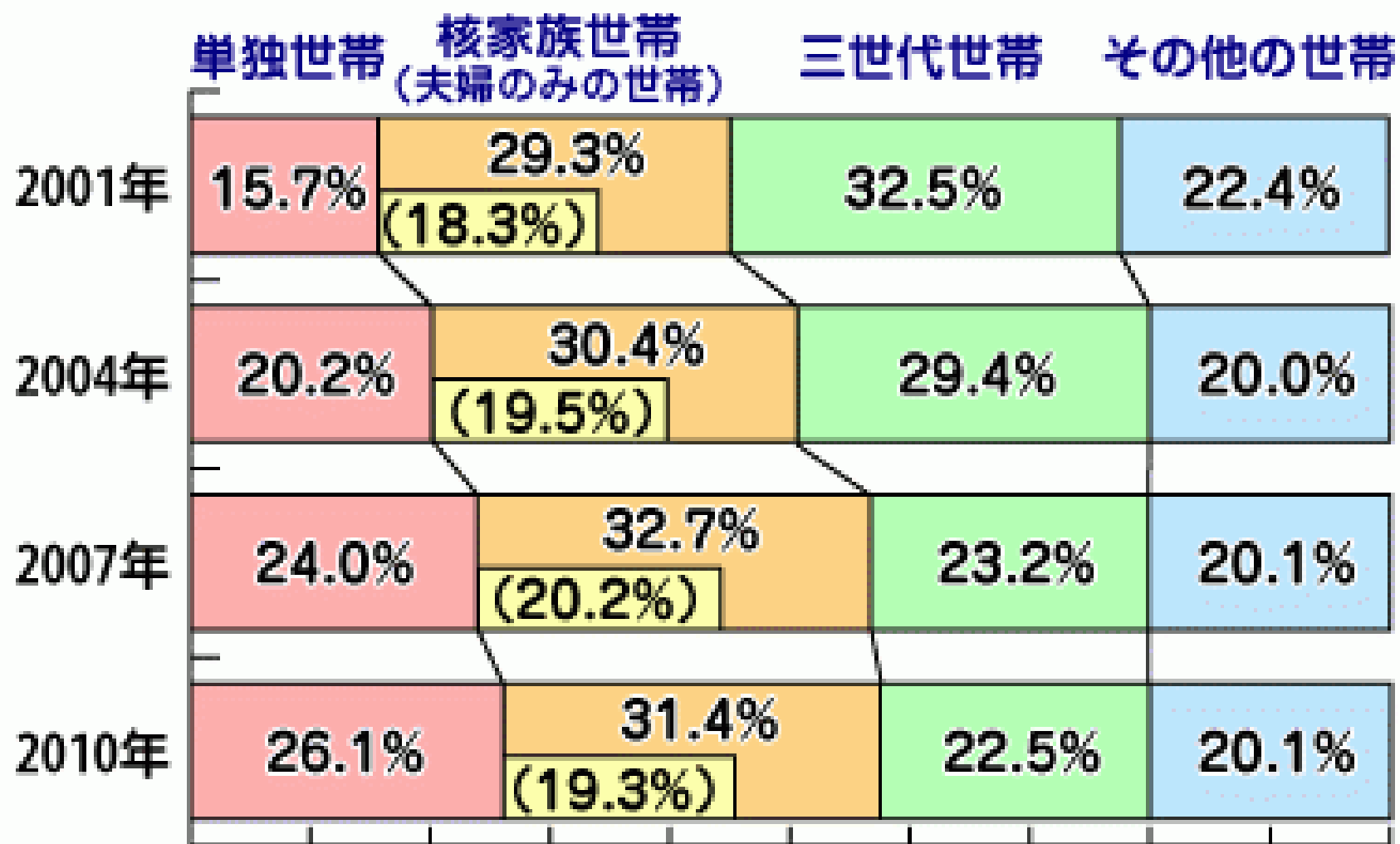
(万世帯)



(出典)実数値:国勢調査[総務省]

推計値:日本の世帯数の将来推計(全国推計)(H20.3推計)[国立社会保障・人口問題研究所]

要支援者や要介護者のいる世帯の構成割合推移



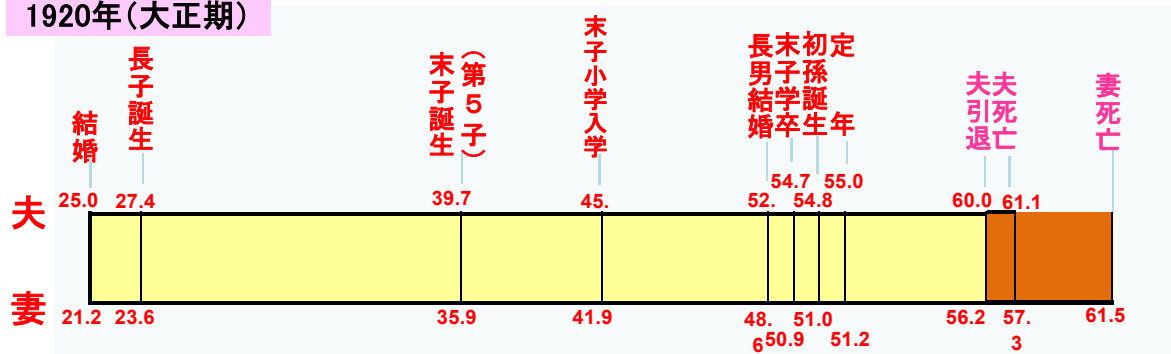
厚生労働省の資料を基に編集部で作成

キャリアブレインNEWS 2011年7月14日号より引用

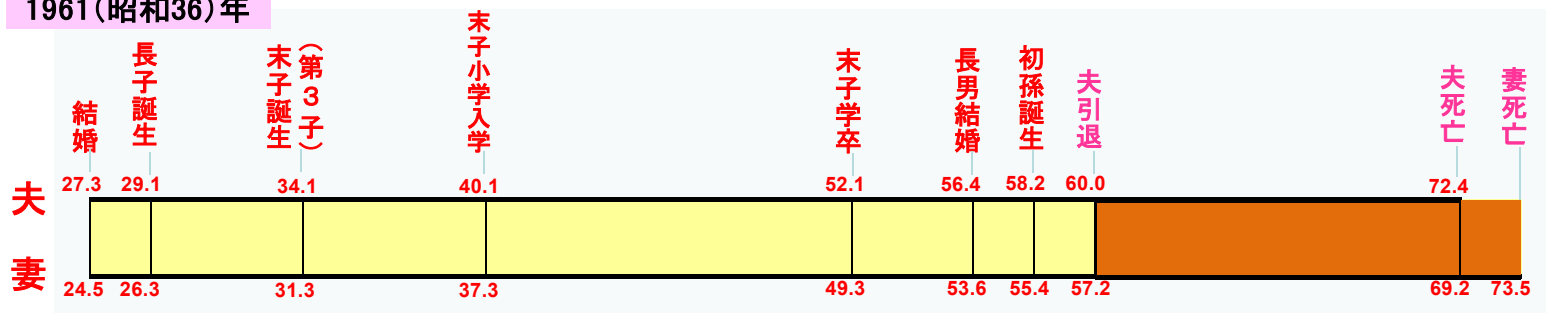
ライフサイクルの変化

子どもの数は減少する一方、平均寿命の延伸により夫の引退からの期間も長くなっています。

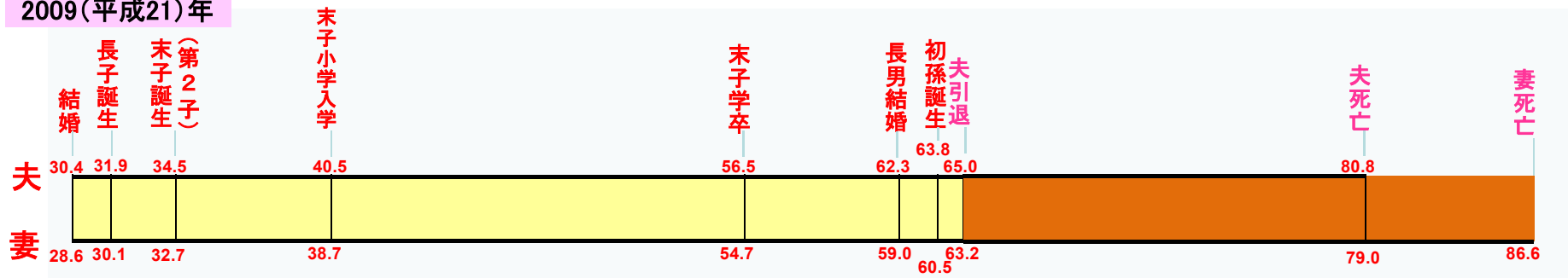
1920年(大正期)



1961(昭和36)年



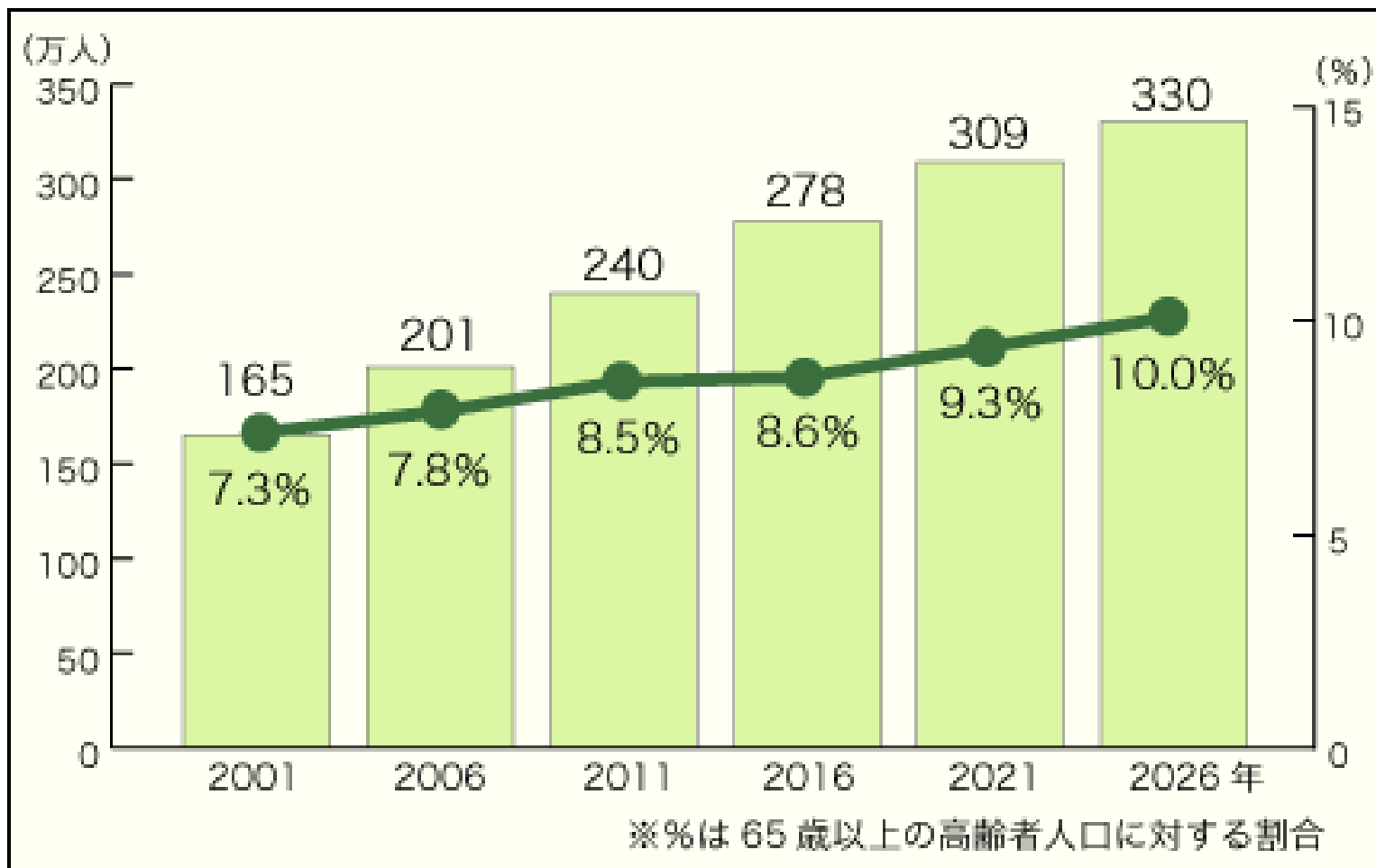
2009(平成21)年



資料：1920年は厚生省「昭和59年厚生白書」、1961年、2009年は厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」等より厚生労働省政策統括官付政策評価官室において作成。

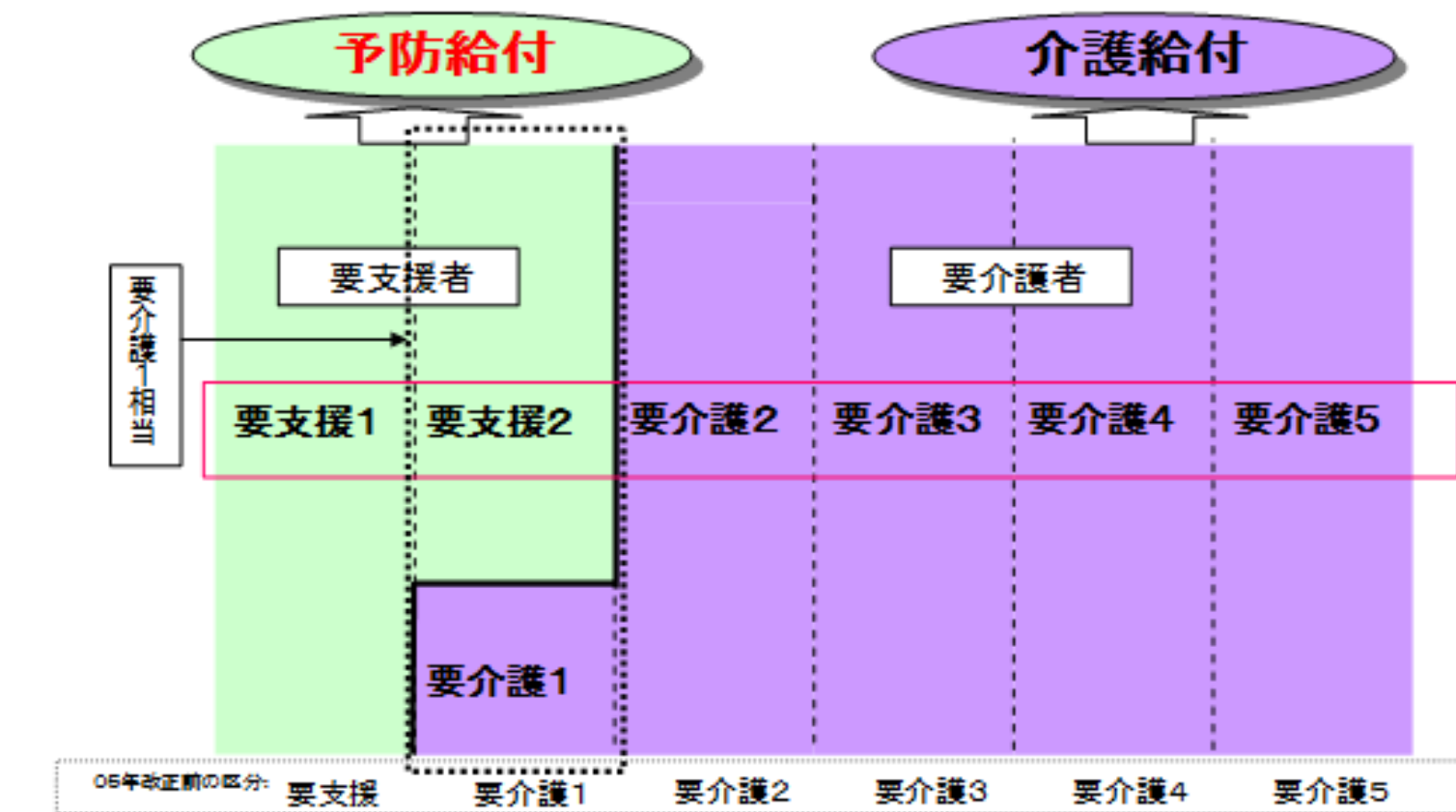
(注) 価値観の多様化により、人生の選択肢も多くなってきており、統計でみた平均的なライフスタイルに合致しない場合が多くなっていることに留意する必要がある。

65歳以上の認知症高齢者数



平成9年1月の「日本の将来推計人口」をもとに、平成13年に大塚が推計したもの
(大塚俊男:日本における痴呆性老人数の将来推計、平成9年の「日本の将来推計人口」をもとに。
日精協誌 20:65-69, 2001)

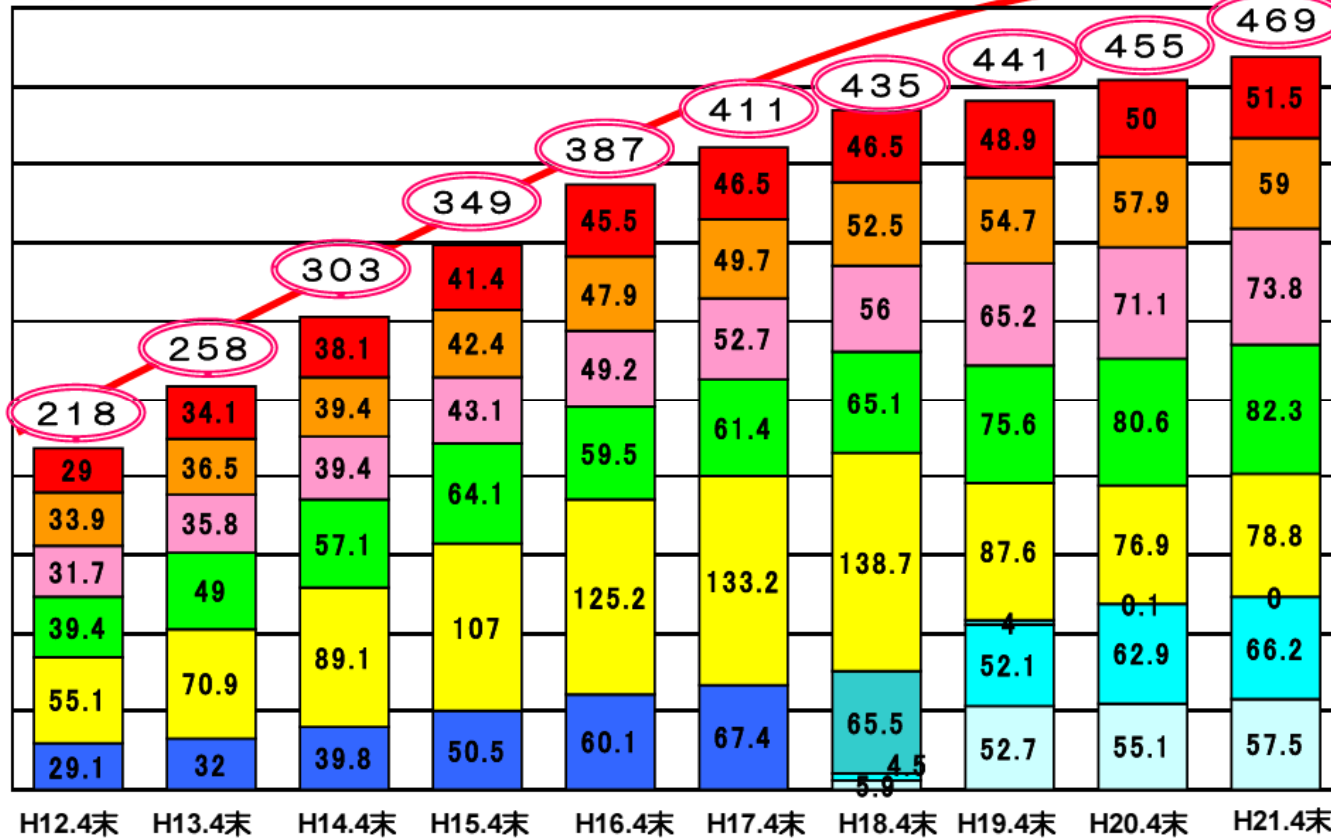
要介護状態・要支援状態の区分



	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
区分支給限度額	4,970	10,400	16,580	19,480	26,750	30,600	35,830

要介護度別認定者数の推移

(単位:万人)

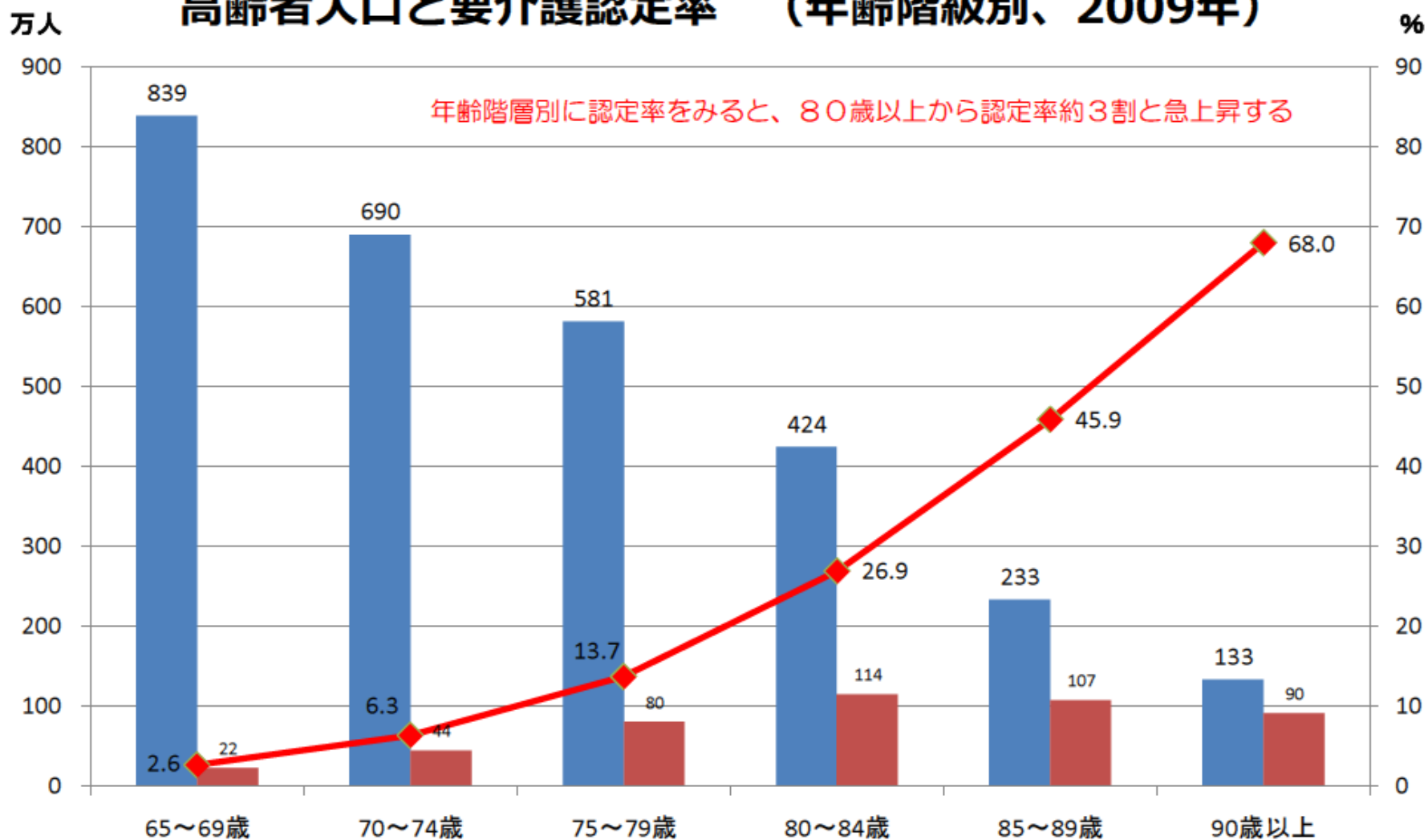


要介護度	人数	割合
計		115%
要介護	5	78%
	4	74%
	3	133%
	2	109%
	1	140%
経過的要介護		
要支援	2	140%
	1	

H12.4とH21.4の比較

■ 要支援 ■ 要支援1 ■ 要支援2 ■ 経過的) ■ 要介護1 ■ 要介護2
■ 要介護3 ■ 要介護4 ■ 要介護5

高齢者人口と要介護認定率（年齢階級別、2009年）

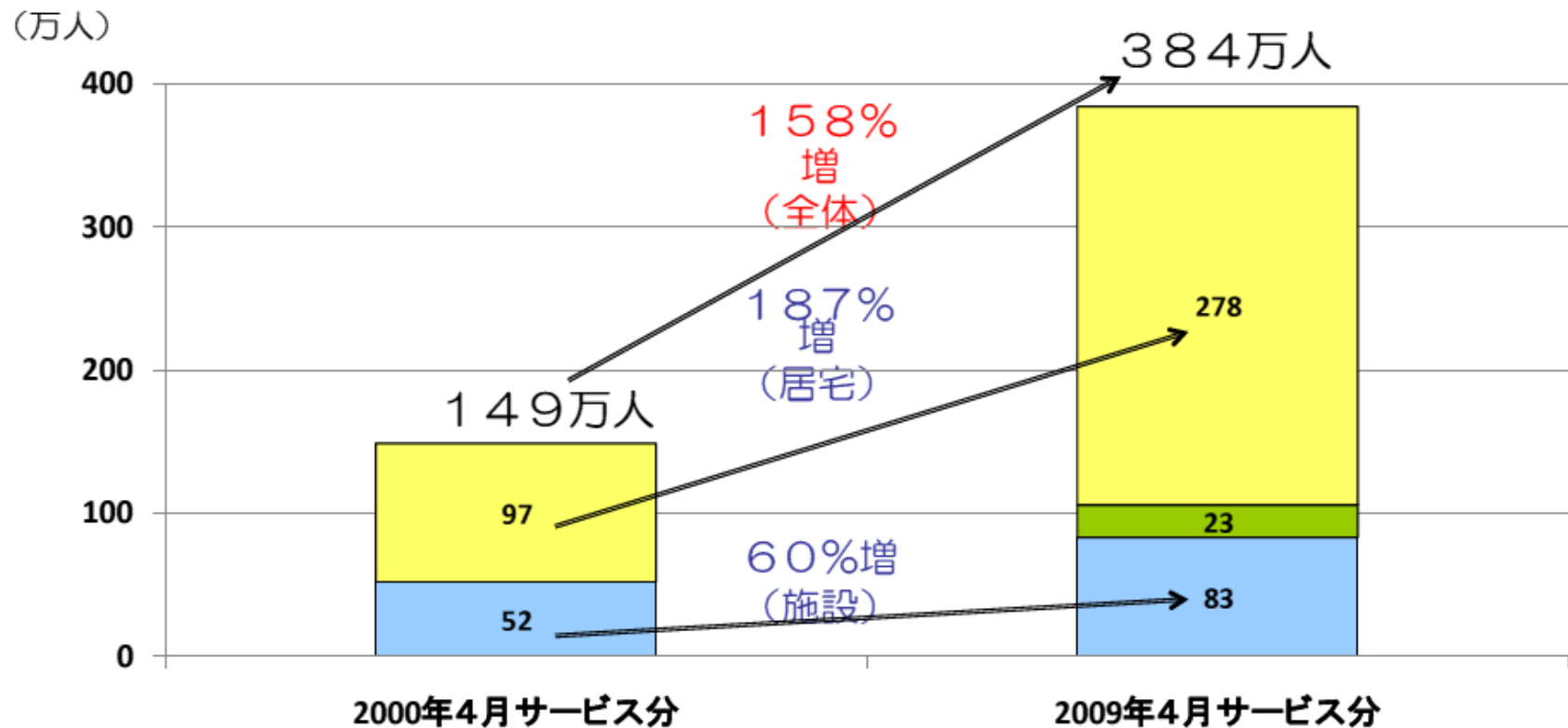


【出典】介護給付費実態調査

■人口 ■認定者数 ◆認定率（右軸）

サービス受給者数の推移

- サービス受給者数は、9年で約235万人（158%）増加。
- 特に、居宅サービスの伸びが大きい。（9年で187%増）



■ 居宅サービス（2008年2月サービス分は、介護予防サービスを含む） ■ 地域密着型サービス（地域密着型介護予防サービスを含む）
■ 施設サービス

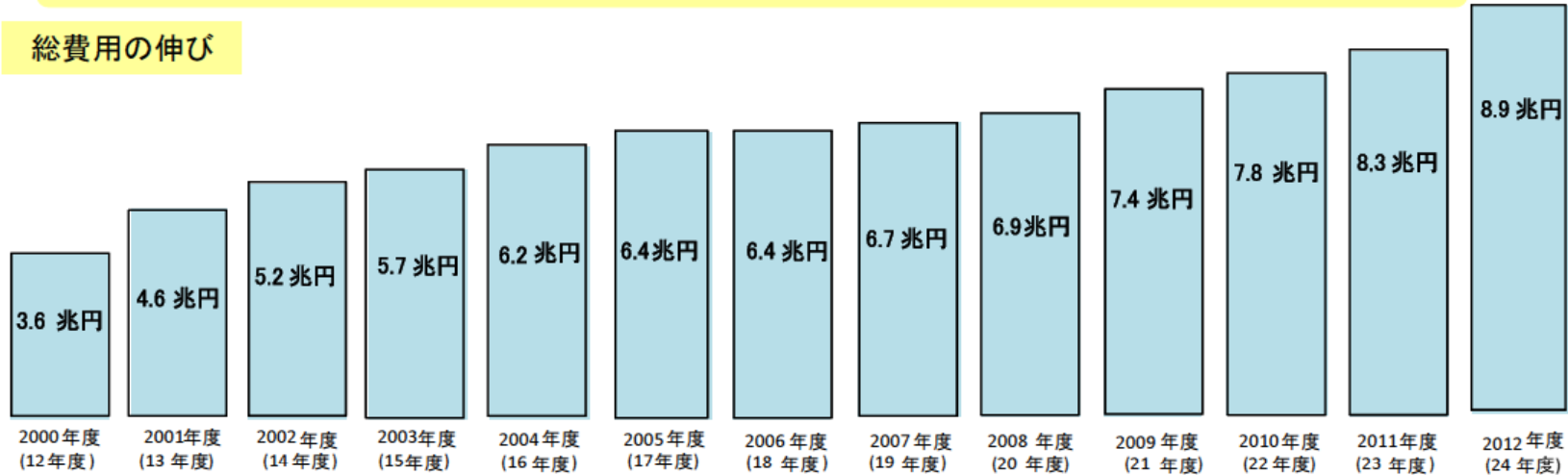
出典：介護保険事業状況報告

※介護予防サービス、地域密着型サービス及び地域密着型介護予防サービスは、2005年の介護保険制度改正に伴って創設された。
※各サービス受給者の合計とサービス受給者数は端数調整のため一致しない。

介護保険の総費用等の推移について

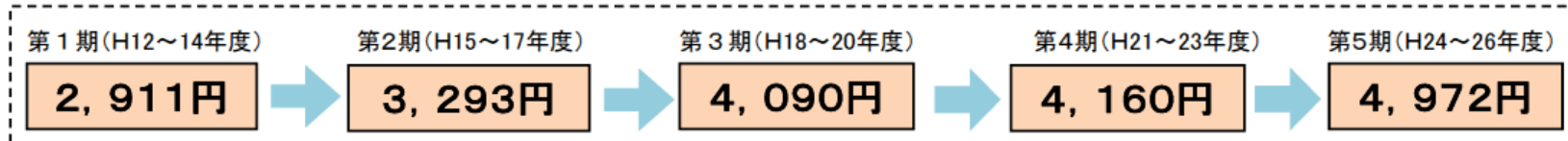
○ 制度創設10年あまりで費用が2倍以上に伸びている。

総費用の伸び

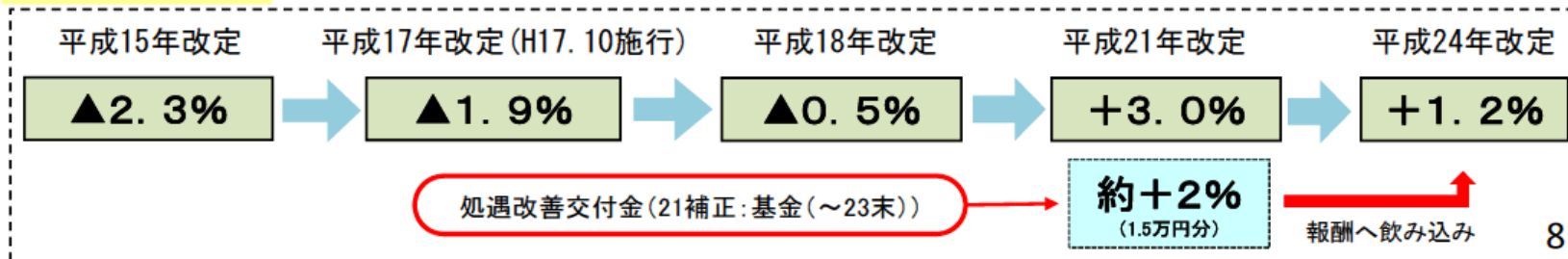


(注)2000～2010年度は実績、2011年度・2012年度は予算ベース。

1号保険料の推移(加重平均)



介護報酬改定

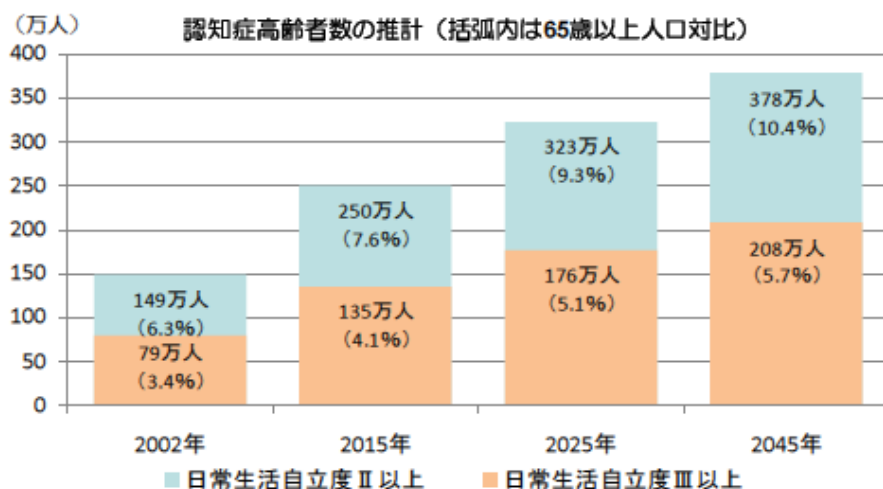


今後の介護保険を取り巻く状況について

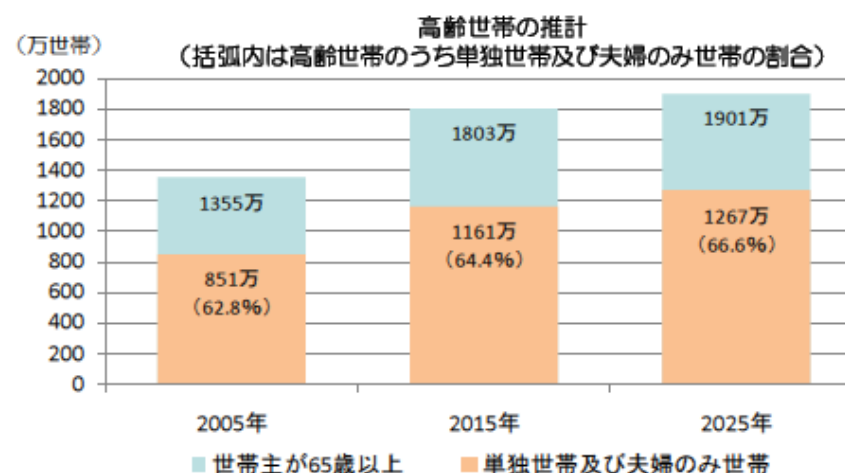
① 75以上高齢者の全人口に占める割合は増加していき、2055年には、25%を超える見込み。

	2008年	2015年	2025年	2055年
75歳以上高齢者の割合	10.4%	13.1%	18.2%	26.5%

② 65歳以上高齢者のうち、認知症高齢者が増加していく。



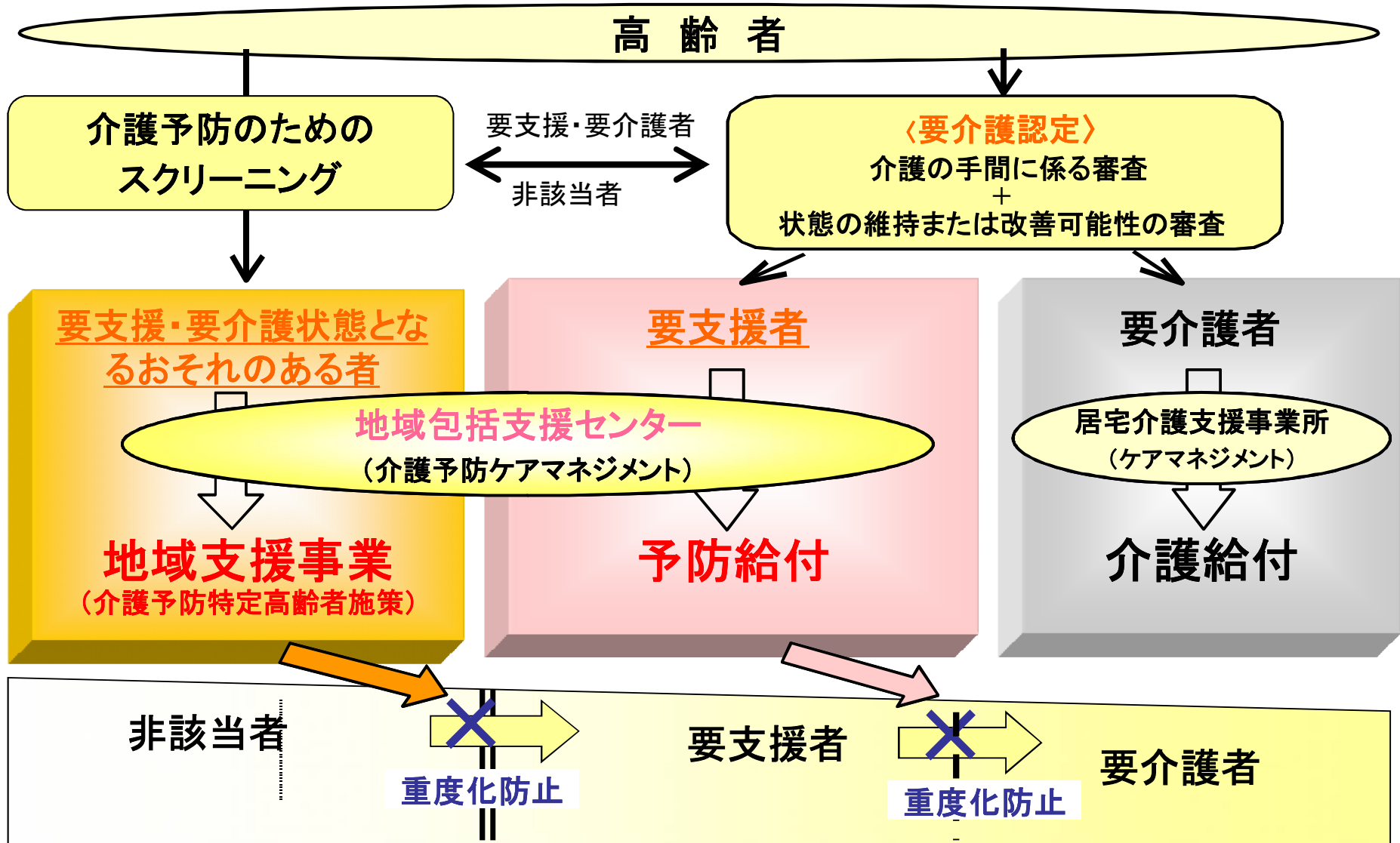
③ 世帯主が65歳以上の世帯のうち、単独世帯や夫婦のみの世帯が増加していく。



④ 首都圏をはじめとする都市部において、今後急速に高齢化が進む。

	埼玉県	千葉県	神奈川県	秋田県	山形県	鹿児島県
2005年時点での高齢者人口	116万人	106万人	149万人	31万人	31万人	44万人
2015年時点での高齢者人口 (括弧内は増加率)	179万人 (+55%)	160万人 (+50%)	218万人 (+47%)	34万人 (+11%)	34万人 (+10%)	48万人 (+10%)

介護保険は予防重視型システム



高齢者の機能低下の流れとニーズの変化

